

2022年8月9日

DENSO KOBELCO SARD GR Supra 第4戦富士、大胆に攻めた戦略で6位フィニッシュ



SUPER GT 第4戦富士レポート

2022 SUPER GT 第4戦「FUJIMAKI GROUP FUJI GT 100Lap RACE」(8/6-7)

富士スピードウェイ(1周4.563km)

入場者数：予選18,600名、決勝29,300名 合計47,900名

8月7日(日)、SUPER GT第4戦「FUJIMAKI GROUP FUJI GT 100Lap RACE」の決勝が行われ、12番グリッドから進取果敢に勝利へ突き進んでいったDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、関口が虎視眈々とチャンスを狙いながら様々な戦略プランのための冷静な走り。16周目には64号車から10位のポジションを奪い、36周目には100号車を仕留め暫定6位に。不測の事態を想定しながらも1回目ピットインを引っ張る戦略を取行。前とのギャップを削るとともに燃費を稼ぐ関口は戦略の幅を大きく広げるクレバーな走行を続けた。

42周目にピットインをすると8位で中山が戦列復帰。55周目に17号車をパスして7位に順位を上げると中山は次のステントを見据えながら周回を積み重ねていった。そして2回目のピットインは、更に上位を狙うべく、タイヤ無交換と中山の連続走行という大胆なレース戦略を取行。他車よりも10秒以上も早く5位のポジションでピットアウトすると中山は貪欲に突き進んでいった。81周目、8号車とのマッチアップではGR Supraコーナーでアウト側に寄せられて出されて一瞬抜かれるも、最終コーナーですぐに抜き返すバウンスバックで5位を奪い返す闘志あふれる中山であったが、レースディレクターから順位を戻すよう判定があり、悔しくも1コーナーで8号車を先行させた。レース終盤は前後の5位8号車と7位14号車とのギャップが一進一退の展開となったが、中山は6位を守り抜いてチェッカーを受けた。

DENSO KOBELCO SARD GR Supraは、逆境からの始まりではあったが、決勝では進取果敢に見事にそれを力強く跳ね返し、チーム一丸となった冷静かつ大胆に攻めたレース戦略と走りで見事な6位フィニッシュとなった。ドライバーポイントは5点を獲得(計16点)、チームポイントは8点を獲得(計26.5点)し、ともにランキング10位となった。

■事前情報

約2ヶ月のインターバルを経ての開催で真夏の長距離2連戦の始まりとなる第4戦の舞台は今季2度目の富士スピードウェイ。当チームパートナーでもあるFUJIMAKI GROUP様がラウンドパートナーを務め大会名称は「FUJIMAKI GROUP FUJI GT 100Lap RACE」。前戦第3戦鈴鹿では、あと一步で表彰台となる惜しい4位フィニッシュとなり、開幕戦から常に上位争いを演じているDENSO KOBELCO SARD GR Supra。8月6日(土) 午前に公式練習、午後11時にノックアウト方式(Q1、Q2)の公式予選で、7日(日) 決勝は14時スタート。今季1度目の富士(第2戦)と同じく450km(100周:約2時間半)で争われ、給油を伴うピットストップは2回が義務付け。サクセスウェイトは現獲得ポイントの倍となる22kgを搭載する。重量増による富士でのタイムの落ち込みは、22kgだと約0.4秒弱となる。



周辺の開発が進む富士スピードウェイは1.5kmにおよぶ世界屈指のロングストレートを持ち、迫力のTGRコーナー(1コーナ

ー)での先陣争い、続く100Rにかけての超高速コーナーバトル、ダンロップコーナーでのブレーキング競争、つづら折りの峠道のような上りのセクター3など、道幅が広く低速から高速までパッシングポイントが多く非常にバラエティに富んだ国内有数のサーキット。前回の富士では巧みなレース戦略で後方から追い上げてトップを走る快走を見せたDENSO KOBELCO SARD GR Supra。今季の後半戦を占む重要な一戦で、真夏の450kmと暑い長丁場ゆえ、波乱のドラマが起きやすく、天候や運も含めてレース戦略&チーム総合力によって大きく勝負が左右される第4戦富士。脇阪寿一監督のもとチーム一丸となって強い決断力で冷静かつ大胆に振る舞い、進取果敢に勝利へ突き進んでいった。

■公式練習走行

6日(土)9時から開始された公式練習走行は、朝方の雨と濃霧の影響から路面はウェット。気温21度/路面温度25度の曇天の中で85分間のセッションが開始された。ウェット宣言がされたことで、しばらく路面状況を注視した後にメディアム系のウェットタイヤを装着して中山がクルマの状況を確認。その後、ドライ路面に変わった頃に関口がメディアム系ドライタイヤを装着してコースイン。ドライ路面でのクルマの状況をチェックしながら12周目に1分29秒089とその時点で8番手タイムをマーク。前後車高の調整をしながらセットアップを進め、19周目からは中山が残り少ない時間の中でユーズドのメディアム系タイヤでクルマの感触を確かめた。混走セッションは22周を走行して、関口が最初にマークした1分29秒089のタイムで11番手となった。

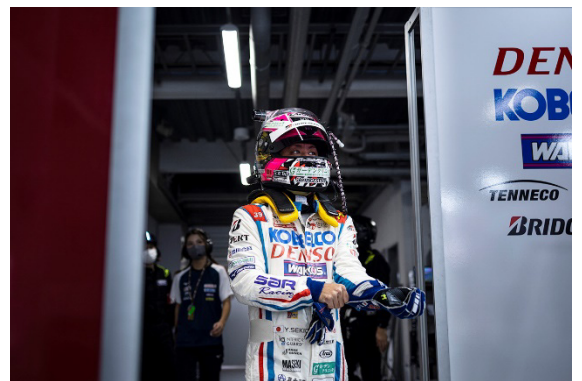


10分間のGT500単独セッションでは、曇ったままの天候で気温24度/路面温度30度。中山がハード側タイヤでアタックシミュレーションを行っている途中の5周目、セクタートップタイムを刻んでアタックをしていた矢先にクルマに不具合が発生して緊急ピットイン。ピットロード途中で車両が停止してしまうトラブルが発生してしまう。結果的にGT500単独セッションではタイムアタックシミュレーションできずに15位に。公式練習走行ではトータル27週の走行に留まった。その後、FCYテスト、サーキットサファリは不具合対応のため貴重な走行時間を失うこととなった。

■公式予選

■Q1：関口が渾身のアタックも12番手に

6日(土)15時28分のQ1開始時点は、この季節としてはかなり低い気温22度/路面温度27度の曇り。午前中の不具合もインターバルの間に修復。コースオープンと同時にコースインしたファーストアタッカーの関口は、決勝も見据えて選択したハード側タイヤが、このレースウィークまだ履いていない未知数ながらも、しっかりとウォームアップを開始。グリップが出始めた5周目にアタックを開始するとセクター2、3でその時点でのセクタートップと同等タイムを刻む流石の走りをみせ、1分27秒754のその時点で3番手タイムで駆け抜けていく。ライバル勢も続々とタイムアップを果たしており、続く6周目もアタックを継続。セクター1でコンマ2秒ほど削る気合いの走りで期待がかかったが、セクター2、3では前の週のセクタータイム自己ベストを更新できず。コンマ4秒差で8位のカットラインに届かずにQ1突破を果たすことができなかった。クルマの不具合で貴重な走行時間失い、確認する機会が足りず、悔しい予選結果となった。明日の決勝では予選12番手からの巻き返しを図ることとなった。



6日(土)15時28分のQ1開始時点は、この季節としてはかなり低い気温22度/路面温度27度の曇り。午前中の不具合もインターバルの間に修復。コースオープンと同時にコースインしたファーストアタッカーの関口は、決勝も見据えて選択したハード側タイヤが、このレースウィークまだ履いていない未知数ながらも、しっかりとウォームアップを開始。グリップが出始めた5周目にアタックを開始するとセクター2、3でその時点でのセクタートップと同等タイムを刻む流石の走りをみせ、1分27秒754のその時点で3番手タイムで駆け抜けていく。ライバル勢も続々とタイムアップを果たしており、続く6周目もアタックを継続。セクター1でコンマ2秒ほど削る気合いの走りで期待がかかったが、セクター2、3では前の週のセクタータイム自己ベストを更新できず。コンマ4秒差で8位のカットラインに届かずにQ1突破を果たすことができなかった。クルマの不具合で貴重な走行時間失い、確認する機会が足りず、悔しい予選結果となった。明日の決勝では予選12番手からの巻き返しを図ることとなった。

■決勝

■ウォームアップ走行

7日(日)12時30分から開始されたスタート前20分間のウォームアップ走行は、気温26度/路面温度31度の晴れのコンディション。まず関口がメディアム系のタイヤをベディング。続いて2周目からは中山がハード側タイヤをベディング。3周目から中山が本格的に決勝用のクルマの状況を確認。9周目からは再び関口がクルマを確認した。ウォームアップ走行はトータル11周を走行し、5周目に中山がマークした1分30秒403で8番手タイムとなった。

■決勝レース

第1ステイント：関口が2台抜きながら冷静にミッションを遂行

7日（日）14時決勝スタート時点は、直前に一時的な降雨がありコースとグリッド上を濡らしていった中、気温26度/路面温度33度で雲が多いものの晴れ間も見えるコンディション。夏休みとあって大勢のファミリー連れなどの観客がサーキットを訪れ、コースサイドにはカラフルなテントやパラソルで賑わった。久しぶりの静岡県警白バイとパトカー先導によるパレードラップ、およびフォーメーションラップ1周追加（計2周）により1周減算の99周でレースは争われることになった。整然とした隊列でスタートが切られ、6列目アウト側となる12番グリッドから進取果敢に勝利へ突き進んでいったDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、



スタート担当の関口が虎視眈々とチャンスを狙いながら様々なレース戦略プランが遂行できるために冷静沈着な走りの序盤。16周目には1コーナーでペースを遮られていた64号車から10位のポジションを奪うと後続を引き離し、36周目には同じく1コーナーで100号車を仕留め暫定6位に浮上した。不測の事態を想定しながらも1回目ピットインを引っ張る戦略を敢行。前とのギャップを削るとともに燃費を稼ぐ関口は戦略の幅を大きく広げるクレバーな走行を続けていった。

第2ステイント：中山が安定した走行でポジションアップ

42周目に全車中最後にピットインをすると暫定8位で中山が戦列復帰。1分30秒台から31秒台で安定した走行を続け、55周目に17号車をパスして7位に順位を上げると、FCY（フルコースイエロー）導入を挟みながら中山は次の最終ステイントを見据えながら周回を積み重ねていった。この安定したミドルステイント中に、現状のデータから様々なレース戦略をアジャストして組み上げるハードワークをチームが行った結果、2回目のピットインは更に上位を狙うべく、事前に立てていたプランの1つであるタイヤ無交換と中山のダブルステイントで連続走行させるという大胆な作戦を敢行することとした。



第3ステイント：中山が闘志あふれる走りで6位チェッカー

2回目のピットストップを他車よりも15秒以上も速くピットアウトすると中山はラストステイントを貪欲に突き進んでいった。81周目、追い上げてきた8号車との5位争いのマッチアップではGR Supraコーナーでアウト側に寄せられて出されて一瞬抜かれるも、最終コーナーでインに飛び込み、すぐに抜き返すバウンスバックで5位を奪い返す闘志あふれる中山であったが、直後に無線でレースディレクターから順位を戻すよう判定があり、1コーナーで8号車に順位を譲って先行させる悔しいデュエルとなった。レース終盤は前後の5位8号車と7位14号車とのギャップが一進一退の展開となったが、中山は6位を守り抜いてチェッカーを受けた。



DENSO KOBELCO SARD GR Supraは、この第4戦は逆境からの始まりではあったが、決勝では進取果敢に見事にそれを力強く跳ね返し、チーム一丸となった冷静かつ大胆に攻めたレース戦略と走りで見事な6位フィニッシュとなった。ドライバーポイントは5点を獲得（計16点）、チームポイントは8点を獲得（計26.5点）し、ともにランキング10位となった。

■関口 雄飛



「想定以上に路気温が低くて、うまく持ち込みタイヤが発動しないのかと心配になりましたが、ある程度は良い感触でした。決勝は長距離のレースで色々な作戦を事前に考えていたので、自分のスティントでピットインを引っ張る戦略と燃費をうまく稼いで、雄一につなげて順位を上げられ良いレース展開となりました。次の鈴鹿では同じ450kmですが、また色々な作戦を事前に考えて、今回のことも活かして頑張ります。引き続きご声援よろしくお願いします」

■中山 雄一



「関口選手に出来る限り1stスティント引っ張ってもらって、自分の2nd3rdスティントはタイヤ無交換でつなげました。作戦はうまくいって大きく順位を上げることができたので、考えられる中で1番良い選択をチーム全員でやりきることができたと思います。でもこの結果には悔しさが残ります。次戦鈴鹿では絶対リベンジします。速くて強いレースを見せられるように頑張りますので、次の鈴鹿でも皆様の熱いご声援をよろしくお願いいたします」

■監督 脇阪 寿一



「持ち込みタイヤを決めることや作戦プランなど事前に多くの想定を精度を上げてシミュレーションして臨んだ今季2回目の富士。走り出しの色々な条件からスピードが無かった公式練習走行と予選から、打って変わって決勝では、雄飛と雄一の走り、チームメンバーの頑張りで作戦で、今考えられるベストなレースができたと思っています。でも、優勝を狙っただけに、やはり悔しい。引き続き、優勝目指して挑戦し続けます。次の鈴鹿でも皆様の応援をよろしくお願い申し上げます」

Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time	SW
1	19	WedsSport ADVAN GR Supra	国本 雄資/阪口 晴南	*1'26.178	11
2	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	佐々木 大樹/平手 晃平	*1'26.813	6.5
3	37	KeePer TOM'S GR Supra	S.フェネストラズ/宮田 莉朋	*1'26.994	11
12	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛/中山 雄一	1'27.754	11

天候：曇り、コース：ドライ、Timeの*はQ2ベスト、Rはコースレコード

Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	37	KeePer TOM'S GR Supra	S.フェネストラズ/宮田 莉朋	2:34'24.270	99
2	12	カルソニック IMPUL Z	平峰 一貴/B.バゲット	+7.542	99
3	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	佐々木 大樹/平手 晃平	+12.863	99
6	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛/中山 雄一	+45.334	99

天候：晴れ、コース：ドライ、4.563km×99Laps

Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	37	フェネストラズ/宮田	31
2	14	大嶋/山下	30
3	3	千代/高星	26
10	39	関口/中山	16

Point standings after Rd.4

Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	37	TGR TEAM KeePer TOM'S	41.5
2	14	TGR TEAM ENEOS ROOKIE	39.5
3	3	NDDP RACING	34.5
10	39	TGR TEAM SARD	26.5

Point standings after Rd.4

Partners



情報参照先

● サード公式サイト	: http://www.sard.co.jp
● SARD Facebook	: https://www.facebook.com/SARD.Corporation
● SARD Twitter	: https://twitter.com/SARD_Racing
● SARD Instagram	: https://www.instagram.com/team_sard/
● SARD YouTube	: https://www.youtube.com/channel/UCb5NIgwwcB7MtoorFaF5FVA
● SUPER GT	: http://supergt.net/jp/

■ 本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp

SARD
株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp